

明治法律学校の運動会

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学大学史料委員会 公開日: 2011-04-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡辺, 隆喜 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/10537

●大学史ノート

明治法律学校の運動会

運動会は日本の学校独特の行事である。明治六（一八七三）年三月、築地の海軍兵学寮で「競陣遊戯会」と称して実施されたのが最初だといわれる。これはアスレチックスポーツの訳でヨーロッパ風のスポーツをとり入れたもので、年令別、走行距離別の競技が行われ、入賞者に賞品を与えることが当初より始っていた。

その後、札幌農学校では「力芸会」（一八七八年）、東京大学では「運動会」（一八八五年）が行なわれ、主としてエリート学校のレクリエーションの場として出発し、一八八〇年代以降は、集団行動訓練としての兵式体操奨励と、日清戦争での戦意高揚策として急速に小学校に普及し、一九〇〇年代後半では学校の代表的行事の一つとして確立する。つまり明治期を通じ当初レクリエーション

的色彩を帯びた運動会は、競争心をあおり意気高揚を囿る学校対抗の競技会へと変化する。

明治法律学校の運動会は、創立翌年の明治一五（一八八二）年に始る。この運動会は「我邦各学校中ノ率先者タル名譽ヲ有スルモノ」で「我邦運動会ノ濫觴」（『明治大学百年史』第一巻史料編一、三七八ページ）であるという。慶応義塾の運動会は明治一九年が最初であるので、明治一五年は、たしかに各学校中の率先者であったのであろう。しかし、四年前には札幌農学校で「力芸会」が開かれており、全国的には明治が「濫觴」であったか否かはわからない。私立学校のなかでの濫觴であったのであろう。

創設された明治法律学校の運動会は、古来の花見の伝統にみられる淫猥卑俗な弊習の改良を目指して創案されたが、以来、毎年野外運動として行なわれたものの野卑の弊は消えず、一時、「短艇競漕ノ遊戯」にかえたが、大勢の運動に有効でなかったため、明治三〇年頃には再び野外運動会に復している。

ところで、明治二〇年三月の飛鳥山に開かれた大運動

会についてみれば、学生・校友八五〇名余が参加した。これは、それまでの「大親睦会としての宴会」をかえたものとされており、もしこれが事実ならば実質的運動会はこれが最初ということになる。大親睦会が野外運動会であったか否かは再検討の必要があろう。二〇年三月の参加者は一〇組に分け「種々の競技」のほか、競走、綱引、棒飛、角力を行っている。

翌二一年四月の運動会は一〇〇〇名参加。これを一〇組に分けて各チームの代表選手を選び、「走場は百五十間の楕円形にして、最も早く一周したる者を以て第一となし、第三迄を勝者と定」めたという。トラック競技である。綱引、棒飛、角力も行っている。賞品には懐中時計、置時計、蝙蝠傘、書籍、シャツ、筆、墨、半紙、靴足袋のほか、刑法講義、治罪法論、性法講義などの教科書が与えられている。遠方からの見物人も多く、茶屋も出店し賑った。当時はレクリエーション的性格が強ったようである。明治法律学校（明治大学）の場合、この性格は明治期を通じて変わっていない。

（渡辺隆喜）